

# 中学校保健体育科における、生徒の運動意欲と 楽しさを高める授業の実践

## - 生徒の「気づき」に着目して -

学籍番号 179966  
氏名 今浦 希水  
主指導教員 田中 満公子

### 1. 背景と目的

「平成 29 年度全国体力・運動能力，運動習慣調査」において，体力の二極化の現状が明らかになった。このことから，運動時間の少ない子どもたちに対する働きかけが体力向上のためには必要である。体力の向上に加え，生涯にわたって運動に親しむことができる資質を育てることで，スポーツに関する意識や意欲，達成感を大切にすることでそれらが向上すると考えられる。そこで，本実践研究の目的をスポーツに関する意識や意欲の向上，達成感を味わうことで，積極的に参加することができ，体力の向上も期待できるのではないかと考え，実践を通して研究を進めることとした。

### 2. 定義と仮説

観察実習から，生徒が教師や友達からのアドバイスや声掛けがあることで動きが変わったり，記述内容や発言が具体的になると分かった。そこで，その具体的な発言や記述を「気づき」と捉えることとした。「気づき」とは，「運動ができるようになるためにコツやヒントを得られること，動きについて話し合ったり，伝えあったりすること」と定義づけし，実習を進めた。また，実践的研究の目的を達成するために，授業内で生徒の「気づき」があれば，運動の楽しさや，運動意欲の向上につながっていき，それらが新学習指導要領にも明記されている「体育」の目標にあるように，健康の保持増進と生涯にわたって運動に親しむことができるということにつながっていくのではないかと考え，次の仮説を立てた。

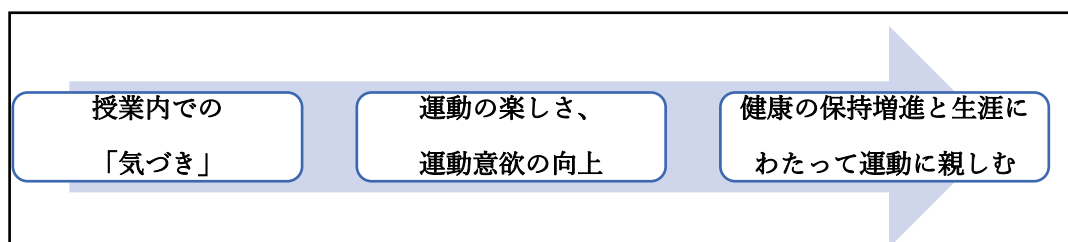


図 本研究の仮説

### 3. 実践内容と分析

基本学校実習Ⅱでは、なぎなたの授業を実践した。1年生男女に「楽しさ」のアンケートを実施し、多くの生徒が「動く」時間に楽しさを感じていることが分かった。そのことから、動く時間に楽しさを感じられるよう、教え合いの時間を授業内に設け、動く時間を充実させていくことにした。また、生徒の「気づき」が得られるよう、明確な指示や説明をおこない、今何をする時間なのかが生徒に伝わるようにし、生徒が「気づき」を得るための土台を作っていくことが大切であると学んだ。

発展課題実習Ⅰでは、3年生女子の水泳の授業を実践した。教え合いの時間を毎時間設け、動く時間を友達同士で充実させられるように工夫した。半構造化インタビューの結果から、教え合いの時間に対して肯定的な意見を示す生徒が多かった。そのことから、教え合いをもっと生徒同士で充実させられるようにしたいと感じた。

発展課題実習Ⅱでは、なぎなたの授業を実践した。生徒の意見から、教え合いの時間は有効であると分かったので、タブレットの活用と教え合いのポイント、教え合いの方法を視覚的に示した。生徒たちは、それらを用いながら教え合いの時間に取り組んでいた。授業最終での「打ち返し」テストの得点を見ても、全体的に点数が上がっているため、教え合いの時間から「気づき」があったと言える。これらのことから、「気づき」が意欲や楽しさに繋がっていることが生徒の記述や発言、アンケートの結果から読み取れるため、仮説の途中の段階までは立証できたのではないと言える。

### 4. 成果と課題

これまでの4回の学校実習を得て、「授業内での「気づき」から運動の楽しさ、運動意欲の向上」の仮説途中までを立証することができた。

「平成30年度全国体力・運動能力、運動習慣調査」では、「卒業後も自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたいと思う」と回答した割合が上昇したという結果が出た。この結果から、「健康の保持増進と、生涯にわたって運動に親しむ」という仮説の立証に向け、上記の項目に、肯定的に回答した生徒だけでなく、それ以外の生徒に対しても、運動意欲と楽しさを高めるためのプロセス知らせることや、授業で成功体験をつませること、「私は、できる」という自信を生徒が持ち、できるようになったことや、それまでの過程などで達成感を味わうことができるような授業づくりを目指していく。

また、生徒に「もっとやりたい」と意欲的に感じさせるためには、これまでできなかったことが授業ごとに少しずつ形になっていくことの喜びを感じさせることや、今現在の自分の姿がどのような状態であり、どのような姿になることが理想なのか、明確なイメージを持たせる必要がある。それらを教え合いの時間までに、教師が準備する必要がある。

今後も引き続き、生徒の「気づき」に着目し、様々な領域で、教師から生徒への声掛けの方法やタイミングを考察したり、生徒同士で自由な教え合いの時間を設定することに努めていく。